

音楽科学習指導案

1. 題材 主題に合う旋律をつくろう ―箏を用いて― (第3学年)

箏曲「さくらさくら」

2. 内容のまとめり [第2学年及び第3学年] 「A 表現」(1)創作 及び [共通事項](1)

3. 題材の目標

- (1) 箏の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。
- (2) 箏の奏法や音色、旋律の重なりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとめりのある創作表現を創意工夫する。
- (3) 箏の奏法や音色、旋律の重なりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統楽器に親しむ。

4. 題材について

この実践を行った学年は、第1学年では、箏曲「さくらさくら」の独奏、第2学年では、「さくらさくら」に小鼓・大鼓・太鼓によるお囃子を加え、合奏に取り組んだ。ともに、和楽器の表現活動を通して我が国の伝統音楽のよさを感じ取れるような授業を目指した。本題材では、箏の演奏だけではなく旋律創作を通して、和楽器の新たな聴き方・感じ方・表現の仕方を身につけさせたい。創作においては、タブレット型端末を用いて、第1学年では変奏曲の発想で、第2学年ではモチーフを変化させて単旋律創作に取り組む中で、音を音楽に構成する過程で試行錯誤する体験を積み重ねている。

本実践では、「さくらさくら」の二重奏の体験や、箏の多彩な奏法と音色から創作のイメージをもたせ、タブレット型端末では取り上げなかった「演奏」と、箏曲「さくらさくら」の音階である「平調子」と「音域」を大きな創作の条件とし、副次的な旋律の創作に取り組む。和音としての音の重なりのみではなく、奏法や音色の工夫、旋律としての全体構成にも着目して創作を進める。また、学習の展開や中間発表で演奏を効果的に取り入れることにより、旋律創作に様々なアイデアが生かされるばかりではなく、間を取る、呼吸を合わせるといったこれまでの和楽器を扱った学習が生かされるものと考えた。

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 箏の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>思 箏の奏法や音色、旋律の重なりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとめりのある創作表現を創意工夫している。</p>	<p>態 箏の奏法や音色、旋律の重なりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6. 指導と評価の計画(6時間扱い)

時	●学習内容 *生徒の思考、発言等 ※教師の働きかけ、注意点	知・技	思	態
1	<p>●箏曲「さくらさくら」についての学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・爪の付け方や姿勢を確認する。 ・既習の「さくらさくら」の旋律を演奏(復習)する。 <p>●「さくらさくら」の二重奏例を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように重なっているか、重ね方①ユニゾン、②カノン、③合いの手、④和音を確認する。 <p>●「さくらさくら」の二重奏を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で合わせて演奏する。また、演奏していない生徒は聴いて感じたことを交流する。 <p>●振り返りシートを記入する。</p> <p>※次回は、副旋律を創作することを予告する。</p>			
2	<p>●前時を振り返る。</p> <p>*ユニゾンでおわると気持ち良い *合いの手を使いたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法の工夫を取り入れたい生徒の振り返りシートをきっかけとし、1年時に「さくらさくら」で扱った、奏法①合わせ爪、②かき爪、③割り爪、④グリッサンドを想起する。 <p>●様々な奏法を用いた二重奏の模範演奏を聴き、感じたことを交流する。</p> <p>*グリッサンドは豪華な感じ *ピッツィカートが柔らかくて好き</p> <p>●様々な奏法を体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法⑤ピッツィカート、⑥スクイ爪、⑦トレモロ、⑧流し爪について確認する。 ・それぞれ、第2パートを演奏する。 ・全体で合わせて演奏する。また、演奏していない生徒は聴いて感じたことを交流する。 <p>※「間違いなく演奏する」ではなく、「創作ではどのように生かせそうか」を考えるよう促す。</p> <p>●主題となる旋律を確認し、特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学習した独奏のものと比較し、今回主題となる「さくらさくら」の構造をつかむ。 <p>●第2パートを創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法についての記譜ガイドを配付する。 <p>※進まない生徒には、体験した2つの二重奏で気に入った重なりや奏法を取り入れるよう促す。</p> <p>●振り返りシートを記入する。</p>	知 フ ー ク シ ー ト 、 楽 譜		態 観 察 振 り 返 り シ ー ト
3	<p>●振り返りシートから、前時の学習内容を振り返る。</p> <p>*「ユニゾン」を検討する</p> <p>→(最後にユニゾンを使った生徒に)最後に使うとどのような効果がある?</p> <p>生徒A:ぴったり合わさって終わる感じにしたかった</p> <p>生徒B:メロディーを主張する感じにしたかった</p> <p>●前時まで創作した作品をいくつか取り上げ、アイデアを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴いて感じたことを交流する。 			

	<p>※生徒の発言から新しいアイデアをひろい、教師がその場で弾いて試す。</p> <p>●第2パートを創作する。</p> <p>※箏で音を出して試しながら一人ずつ創作するが、ペアで協力してよい(楽譜を書いてもらう、アイデアについて聞いてもらう等)ことを伝える。</p> <p>●これまでの創作の過程を振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>・創作した楽譜にトレーシングペーパーを重ねて、なぜその重ね方や奏法を選択したか、また、どのような効果をねらったかを記入することで整理する。</p> <p>●振り返りシートを記入する。(5分)</p>			
4 本 時	<p>●箏を対面させ、自作品の二重奏を体験する。</p> <p>※演奏していない生徒は、他の生徒の演奏を聴くよう促す。</p> <p>●交流したい内容や、課題に思う点を整理する。</p> <p>・これまでの創作の過程で考えてきたことや、二重奏を体験したことから整理する。</p> <p>●4人グループで交流を行う。</p> <p>・「作曲者」「演奏者」「鑑賞者」の3つの立場を明らかにしながら交流を行う。</p> <p>・作品のよいところ:青、アドバイス:赤で意見を記入する。</p> <p>●自作品を見つめ直す。</p> <p>・交流を経て考えが変化した点や、次回に活かしたいことを緑で記入する。</p> <p>●振り返りシートを記入する。(5分)</p>		<p>思 交 流 シ ー ト 、 楽 譜</p>	<p>態 観 察 、 振 り 返 り シ ー ト</p>
5	<p>●前時の交流をもとに、旋律を再構成する。</p> <p>●創作の過程を振り返り、発表会エントリーシートに旋律創作の思いや意図を整理する。</p> <p>●発表に向けて、ペアで二重奏の練習をする。</p>	<p>知 ・ 技 エ ン ト リ ー シ ー ト 、 楽 譜</p>	<p>思 エ ン ト リ ー シ ー ト 、 楽 譜</p>	
6	<p>●創作した旋律の、発表会を行う。</p> <p>・全体を3グループに分け、創作の意図を伝える→演奏→感想記入のローテーションで行う。</p> <p>・ペアで演奏を発表する。前時に整理したことをもとに、特に聞いてほしい点を伝えてからペアで演奏を発表する。</p>			

《題材同士の関連》

「A表現」(2) 器楽	「B鑑賞」	「A表現」(3) 創作
第1学年『箏に親しもう』 箏曲「さくらさくら」独奏	第1学年『箏に親しもう』 「さくら変奏曲」(藤井凡大) 「六段の調」(八橋検校)	第1学年 「音の高さとリズムを変化させて旋律をつくろう」
第2学年『邦楽囃子に親しもう』 箏曲「さくらさくら」に小鼓・大鼓・太鼓による囃子を加えた合奏	第2学年『舞台芸術に親しもう』 歌舞伎「勸進帳」 歌劇「アイーダ」(ヴェルディ)	第2学年 「モチーフを変化させて旋律をつくろう」



第3学年 主題に合う旋律をつくろう—箏を用いて—

7. 本時について(本時 4/6)

1 本時の目標

音楽を形づくっている要素(音色、テクスチャ、構成)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音程や旋律の組み合わせ方、全体構成を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもち、旋律を創作しようとする。

2 展開(4/6)

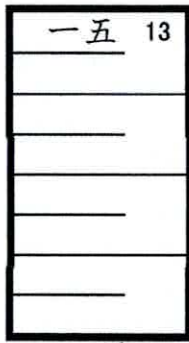
流れ	○生徒の学習活動	・教師のかかわり
試す つかむ	○前時まで創作した作品を、二重奏の形態で演奏する。 *よい和音に感じられない。(テクスチャ) *奏法が様々でまとまりがないのでは。(構成)	・それぞれが自作品を演奏し、4人グループで聞き合うよう促す。
(10分)	【学習課題】 箏の特徴や主題のよさを活かした第二パートをつくるには、 どのように表すとよいのだろうか(継続)	
見直す	・自分の作品を見直し、創作の思いや意図、どの個所にどのような工夫を加えたいかを明らかにし、ワークシートに記入する。 *「七七八」に変化を加えたい。(構成) *グリッサンド以外の奏法も用いたい。(音色)	・創作の過程や冒頭の二重奏を振り返り、課題に思う点や新たな発想を得たいと思っている点を明らかにするよう促す。 ・音色や奏法、重ね方とその効果を予測できるよう、発問を工夫する。
(15分)		
広げる	○共通の作品の鑑賞・分析を通して、交流の内容について理解する。 *音が多くまとまりがないのではないか。(構成) *音色の工夫が少なく単調ではないか。(音色)	・数名の生徒の作品を演奏し、作曲者の創作の思いや意図を確かめながら、具体的な工夫を取り入れたり、聴いて感じたことを述べたりしながら交流を進める。
(20分)		
	○4人グループで、互いの作品を演奏しながら意見交流をする。 作曲家: 旋律創作の思いや意図、工夫を加えたい点を伝える。 演奏者: 作曲者の意図を踏まえて演奏する。 鑑賞者: 演奏から感じたことや工夫を加えるとよい点を作曲者に伝える。 *1オクターブ上げるなど、音域を変えるとよいハーモニーになるのではないか。(テクスチャ) *あえてユニゾンを数カ所に使うことで、他の小節の音色や変化が際立つのではないか。(構成)	・作曲家・演奏者・鑑賞者の3つの立場を明確にし、交流するよう促す。 ・4色ボールペンを活用して意見を記録するよう促す。 ・交流の中で生まれた新しいアイディアは、演奏して試し、聞き合うよう促す。
(35分)		
深める	○自分の作品を再構成する。 ○意見交流の内容や、それによって工夫を加えた点を全体で交流する。	◆知覚・感受しながら、音色・テクスチャ・構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもち、旋律を創作しようとしているか。
(45分)		
振り返る	【課題解決の姿】 全体のまとまりや終わり方、間や手順を意識しながら、音色や重なりをバランスよく組み合わせることにより、箏の特徴や主題のよさを活かした旋律をつくることができることに気付く。	
(50分)	○本日の学習を通じて感じたことや考えたことを振り返りシートに記入する。	・仲間の意見をもとに再構成した生徒の作品を取り上げ、全員に提示する。 ・次時は、交流でもらったアイディアをもとに旋律に工夫・改善を加え、旋律を仕上げることを伝える。 ・交流を通して新たに生まれた、旋律創作への思いや意図を明らかにして記述するよう促す。

3 本時の評価

音楽を形づくっている要素(音色、テクスチャ、構成)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音程や旋律の組み合わせ方、全体構成を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもち旋律を創作しようとしているかを、交流の様子、ワークシートから見取る。

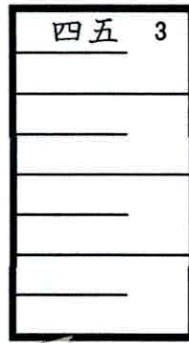
新しい奏法と記譜の方法

① 合わせ爪



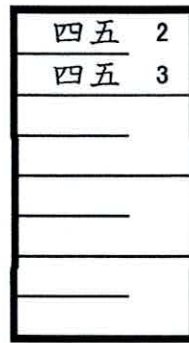
親指と中指で二本の弦を同時に弾く

② かき爪



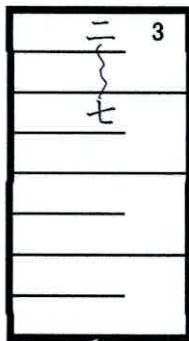
隣り合った二本の弦を中指で手前に向けてほぼ同時に弾く

③ 割り爪



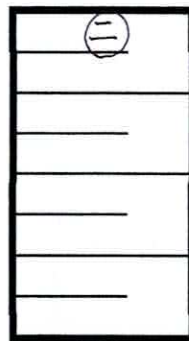
かき爪を2・3の指で続けて弾く

④ グリッサンド



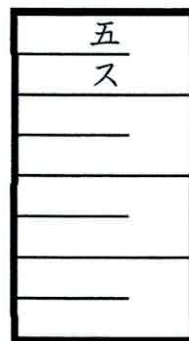
指定された音から音まで隙間なく滑らせるように弾く

⑤ ピッツィカート



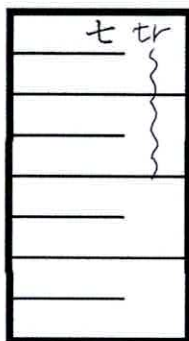
爪をつけていない指で弦を弾く

⑥ スクイ爪



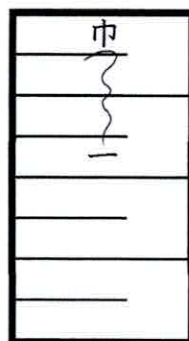
親指の爪の裏側手前に向かって弾く(向こうに弾いたあとに続けて用いる)

⑦ トレモロ



人差し指で1本の弦を連続して弾く

⑧ 流し爪



親指で巾から一へグリッサンドのように弾く

箏曲 さくらさくら 【様々な奏法体験】

日本古謡

—	七
—	七
—	八
—	◎
—	七
—	七
—	八
—	◎
◎	七
—	八
—	九
—	八
◎	七
—	八
—	七
—	八
—	七
—	六
—	◎

—	五
—	四
—	五
—	六
—	五
—	五
—	四
—	三
五	◎
五	◎
ス	◎
◎	為
—	巾
—	ヲ巾
—	巾
◎	為
—	巾
—	為
—	巾
—	為
—	斗
—	◎

—	十
—	九
—	十
—	斗
—	十
—	十
—	九
—	八
五	◎
五	◎
ス	◎
七	七
七	七
◎	七
◎	八
◎	◎
七	七
七	七
◎	七
◎	八
◎	◎

—	十
—	斗
—	巾
—	為
—	斗
五十	十
—	◎
一五	◎
—	◎

3年 組 番 氏名